



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



カナリア(元々の意味は犬)

カナリアの名は原産地のカナリア諸島(スペイン領)に由来している。15世紀、この島にスペイン人が上陸すると、犬の鳴き声が聞こえてきた。そのため、彼らはこの島々をスペイン語で「イラスカ・カナリアス」(犬の島)と名付けた。原産地の一つであるこの島にいたカナリアは16世紀にヨーロッパに持ち込まれ、ペットにされたのである。

・写真はカナリア諸島自治州の紋章・・・7つの島々をはさんで一對の犬が描かれている。





シルエット(の語源)

18世紀、ルイ15世時代のフランスは七年戦争(1756年～1763年)が長引いたことで財政難に陥っていた。そこで当時の財務大臣エティエンヌ・ド・シルエットは富裕層に対して厳しい節約を要求した。その一例として彼はそれまでの肖像画をシンプルな影絵とするように求めた。ここからシンプルな切り絵のような肖像画等を「シルエット」と呼ぶようになったのである。



単位トン(の語源)

船の大きさなどを示すとき、重量トン、総トンなどの表現が用いられる。このトンという単位は酒樽を叩いたときの「トン(tun)」という音に由来する。15世紀、フランスからイギリスへワインを運ぶ船の大きさを表すのに使われ始めたものだという。

当時の酒樽1個の容積は約40立方フィート。これにワインをいっぱい詰めると2,240ポンド、これをメートル法で表すと1,016kgになる。このため、以前のイギリスの単位では、1トンは1,016kgだった。しかし現在ではメートル法が適用され、1,000kgが1重量トンになっている。

なお、和船の大きさを示す「石」という単位も、積荷である米の石高からきている。

ハイジャック(の由来)

1920年代、禁酒法時代のアメリカでは、強盗などの犯罪が横行していた。犯人は犯行に及ぶ時に「Hi, Jack!」と声をかけ銃を突き付けていた。ここからこうした強盗行為全般をハイジャックと言っていた。そこから転じて、乗り物に乗っ取る時に銃を突き付けるイメージから、乗っ取り=ハイジャックとなっていたのである。

日本ではハイジャックは飛行機の乗っ取りという意味で使い、そしてバスジャック、シージャックなどの言葉も生まれたが、後者は和製英語である。



「ローソン」について

コンビニ大手のローソンは今でこそ三菱商事の子会社だが、昭和50年の発足当初はダイエーの子会社であり、かつては福岡ダイエーホークスの多くの選手がローソンのCMに出演していた。(三菱商事が筆頭株主になったのは16年前)

「ローソン」の社名は、ダイエーが提携したローソンミルク社に由来する。ローソンミルク社は1939年にアメリカ・オハイオ州にミルクショップ店として開店した店であり、販売するミルクが評判を呼び、業容を拡大していったもので、創業者はJ・J・ローソン氏。

なお、ロゴは元々の成り立ちがミルクショップであったことから、ミルク缶マークを採用している。ベースカラーに青を使っているのも、ローソンミルク社の看板のイメージを踏襲したもの。



圧巻

中国には隋から清の時代まで「科挙」という難関の官吏登用試験があった。合格者は進士と呼ばれたが、そこにいくには何回かの試験に合格しなければならない。進士になるのは3年に一度の機会しかなく、その合格者も中国全土で300人前後にすぎない。しかし、進士になっても殿試という試験が行なわれ序列がつけられる。殿試のトップ及第者は「状元」と呼ばれ、官吏としての将来が約束される。この「状元」の答案は進士合格者の答案の一番上にのせられる決まりだった。一人の答案が一巻であり、300余の答案の上のった状元の答案は、まさに「巻を圧した」。このことから全体の中でもっとも優れた部分を「圧巻」というようになったのである。多くは詩文、書物や催し物で使う言葉だが、現在ではきわめて素晴らしいという意味でも使われるようになっている。